

選挙を取り入れた小学校社会科の授業開発

— 動的な価値認識形成を目指した第5学年産業学習と 第6学年歴史学習の展開 —

三好市立芝生小学校 多田昌司

I 研究の目的

本稿は、選挙を取り入れ、動的な価値認識形成を目指した小学校社会科、第5学年産業学習、第6学年歴史学習の授業開発を行い、その有用性を考究することを目的にしている。

ここでいう動的な価値認識形成とは、今ある価値基準を絶対視せず、十全でないことを認識し、相手の考え、立場を踏まえながら価値認識を形成するものである。

小学校社会科における選挙を取り扱うのは、小学校6学年の政治学習が中核である。平成20年度版小学校学習指導要領（社会）においても「国会等議会政治や選挙の意味、（中略）等についても取り扱うようにすること」¹⁾とある。また新学習指導要領においては、上記のあとに「国民としての政治への関わり方について多角的に考えて、自分の考えをまとめることができるように配慮すること」と加筆された²⁾。小学校社会科は入門期の社会科³⁾であり、選挙に関わる認識の基礎を養う段階である。選挙の投票率低下が叫ばれる昨今、主権者育成あるいは有権者教育としての性格をもち、選挙を内容に含む小学校社会科の授業開発は求められていると考える。

II 選挙を取り入れた先行授業の特質と課題

選挙を取り入れた学習としては、知識理解型、概念探究型、体験理解型がある。

知識理解型としての授業には「くらしを守る憲法」⁴⁾があげられる。本授業は「日本国憲法には、国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本が定められていることを調べ、現在のわが国の民主政治が日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを考え

る」ことを目標にし、日本国憲法を調べる中で選挙権を知り、国民の思いや願いを叶えるためには今ある権利を尊重し合わなければならないことを調べ意見文にまとめている。概念探究型としての授業には「民意を反映する決め方とは？」⁵⁾がある。本授業は、「今後の衆議院議員選挙の方法について、小選挙区制と比例代表制の長所や短所を参考にしながら、どちらの制度を大切に民主主義を支える政治を築いていくのか考え、話し合う」を目標にし、過去最近2回の衆議院議員選挙の得票数と獲得議席数の結果の資料から、小選挙区制、比例代表制の長所や短所を見出し、討論で議論し、選挙制度やその背景にある民主主義の概念、望ましいあり方を考察している。体験理解型としての授業には、「模擬選挙で政治参加の意識を高める政治学習」⁶⁾がある。本授業は、「政治が自己の生活に密接であることに関心をもち、生活の維持・向上の方法や関わり方を考え、手段の一つとして選挙があることを知り、そして投票の方法を体験的に理解し、将来選挙へ行こうとする態度を形成する」を目標にし、身近な地域に関わる問題を本物に近い形で模擬選挙する等の体験的理解を通して、選挙への意欲を高めている。

先述の知識理解型は、調べ学習を通して事実認識を深め、理解したことを意見文にまとめている。市の政治や日本国憲法について調べたことをカードにまとめ、それをもとにして選挙権を含む日本国憲法の理解を深め、まとめとして日本国憲法を生かすくらしの意見文を書いている。単元全体で得られた知識理解の学習を行っていることから、知識理解型と考える。概念探究型は、小選挙区制、比例代表制の短所や長所を調べ、短所があるにもかかわらずその制度を採用する理由を考え、「選挙制度」の概念を探究している。その過程として、調べたことをもとにしながら、討論で

議論し、小選挙区制や比例代表制の立場から、反論・反駁を通して選挙制度の概念を探究し、より民意を反映させるにはどうすればいいのかを考えていることから、概念探究型と考える。体験理解型は、話し合いにより身近な事象を話し合いにより見直し、地域の問題点を整理し、その解決を公約にする立候補者を選挙している。その際の立候補者、選挙管理委員会の係などを児童が担い、実際に使用する投票箱等の用具を用いて、実際の選挙と同様の体験を通して、選挙を担う有権者としての意識を高めることから、体験理解型と考える。

しかしながら、それら授業に課題があるように考えられる。知識理解型は、児童自ら調べまとめ、理解している学習過程が見られるものの、選挙の表面的な理解にとどまるのではないだろうか。また概念探究型は、選挙に関してその概念をより探究しているものの、内容の抽象度の高さに課題があるのではないだろうか。選挙制度の批評に終わり、将来の有権者の一人としての意識を高めることはできるだろうか。体験理解型は、選挙の体験により、選挙の仕組みなどの理解ができるものの、体験が目的になっていないだろうか。例えば「選挙は大切なのにどうして選挙に行かない人がいるのだろう」等、体験の中から学びを深めていく必要があるのではないだろうか。またどの学習も6学年政治単元のみで実施され、学習を深めていけるのかに疑問が残る。

Ⅲ 選挙を取り入れた小学校社会科授業の方法

(1) 選挙をもとに社会参加のための価値認識を目指す 一動的な価値認識形成一

選挙とは、「有権者の集合体（選挙人団）によって、国会議員等の公務を担当する者（公務員という国家機関）を選定する集会的な行為」であり、それを包有する国民の参政権のうちでも、議員を選挙する選挙権が最も一般的で重要なものである⁷⁾。政治的行為の中でも、重要な位置を占めており、参政あるいは社会参加の権利として保障されているのが投票による選挙である。しかしながら昨今、投票率の低下が指摘される。とりわけ若年層の投票率の低下から、主権者教育の重要性が増してきている。

そこで着目するのが、学習による価値認識形成である。社会科を中心に「選挙は行かなければならない」と、児童は教授されることが多いのではないか。「投票に行くことがよい」という固定化された価値認識（静的な価値認識）にとどまらず、「投票に行くことがよいにもかかわらず、どうして行かない／行くことができない人がいるのか」と、絶えず考えるような、動的な価値認識形成⁸⁾に資するような学習にしなければならないと考える。価値認識をそのまま受け入れるのではなく、試行錯誤し児童自ら考えていく動的な価値認識形成を目指していくことで、将来の有権者としての資質が身に付いていくのではないだろうか。

(2) 選挙を取り入れた小学校社会科学習の方法

① 選挙を取り入れた小学校社会科学習の視点

小学校6学年では、入門期として我が国の政治を学習する。学習指導要領解説社会編においてもとりわけ選挙に着目すると「選挙は国民や住民の代表者を選出する大切な仕組みであること、(中略)、国民や住民は代表者を選出するため、選挙権を正しく行使することが大切であることを考えるようにする。」⁹⁾とある。

しかし先述した「大切な仕組み」に偏重すると、教師が事実を教授し、児童が知識を習得することにと終始するのではないだろうか。社会参加をめざしていくのであれば、それ以外の方法が求められるのではないだろうか。

そこで、模擬選挙を用いた学習を提案したい。社会科における社会参加について橋本氏が以下の表1の3点を述べている。¹⁰⁾

表1 社会参加と学習の在り方

	学習の在り方
消極的社会参加	消費者行為そのものが社会的価値の創造、社会形成に関わっており、そのことを反省的、自覚的に認識（理解）させる。
象徴的・模範的 社会参加	直接的な関与が難しい場合に、シミュレーションやロールプレイ等で、模範的に関与させることで問題の解決の在り方について考察させる。
積極的社会参加・ 社会行動	地域社会の諸課題を取り上げて、その問題の解決策について、地域社会と協働し、その解決策の在り方について考察させる。

(橋本氏の表を改変し筆者作成)

「消極的社会参加」だと、知識教授、理解に偏ってしまうことに課題がある。「積極的社会参加・社会行動」だと、限られた社会問題の解決に焦点化し、それにより体系化されていない社会認識の授業で態度主義・行動主義に自己目的化すると、道徳等と変わらなくなることに課題がある。

よって筆者は、「象徴的・模擬的社会参加」を取り入れたい。直接的な関与が難しい課題でも、シミュレーションやロールプレイ、模擬選挙等で、模擬的に関与させることで、事実を具体的に多面的に理解した上で問題の解決の在り方について考察することができるからである。

② カリキュラム構成

小学校社会科政治学習を構成した場合、6学年で構想される場合が多い。これは、6学年社会科の内容が「歴史」「政治」「国際」であり、それらを3学年社会科から系統的に学習するためである。先行授業でも、選挙に関する学習のためか、その実施はすべて6学年社会科の政治学習であった。

しかし、「系統的に」学習するのであるなら、社会科の学習としての選挙は、おおよそ一般的には6学年になってからでないと扱わないことになる。そうしたなかで、政治学習を構想したとしても、「政治単元の学習」での選挙の学習であり狭義の内容になりはしないだろうか。つまり先述した「積極的社会参加・社会行動」のような、限られた社会問題での政治学習は、その単元だけの単発的な習得で狭義になりやすく、系統的な社会科政治学習としてなりがたいのではないだろうか。

よって、6学年社会科政治学習以外でも選挙を扱うことを提案したい。本稿では、とりわけ5学年産業学習、6学年歴史学習での実施を報告する。6学年政治学習で学ぶ他に、他の単元と関連させ、模擬選挙を体験する学習をしていくことで、選挙についての体験的理解を積み重ねていく。すると、国民としての選挙に関する意識を習得でき、6学年政治学習だけに頼らない選挙に関する社会的認識が深まるのではないだろうか。

また体験させるだけでなく、入門期の小学校社会科において、動的な価値認識形成を目指してカリキュラムを構成することで、「なぜ投票率が低下しているのか」と考えていくようになる。体

験を通して何度も考えていくことで、選挙に対する理解も深まっていく。例えば、5年生では産業学習をする際に自動車に関する選挙を行えば、自動車産業について調べることになり、その理解も深まる。そればかりか、選挙活動を通して、どのような活動が望まれるのかを考えるようになり、「どうして選挙に行かない人がいるのだろうか」と考えるようになる。絶えず被選挙人、選挙人について考えながら活動するようになる。6学年では歴史人物の選挙を通して歴史人物について調べることになり、その理解も深まる。また当該学年で政治学習があることも意識するようになり、「どうすれば投票してくれるのか」「歴史人物を知る上で候補者をより知らないといけない」と思うようになる。絶えず選挙活動について考えていき、動的な価値認識形成を行うことで、「選挙に行くことが良い」という価値認識が固定されず、その多面性が見られるようになる。そうすることで、より多面的な視点をもった児童が、6学年社会科政治学習に取り組み、さらにはその認識をもって中等学校教育以降でより深い考察をすることにつながるのではないだろうか。¹¹⁾ (図1) 動的な価値認識形成を目指すことで、有権者教育としても有効になるものとする。



図1 選挙を取り入れた学習の段階の概要

③ 内容構成とその意義

選挙を取り入れた授業の内容は、先述したように模擬選挙がある授業を構想するものである。しかし、当該単元が選挙の学習に直接関係する内容ではない場合、学習する単元の内容を圧迫してしまう可能性がある。

そこで、選挙を方法にして単元を学習するように構想すればいいのではないだろうか。学習する単元の内容に、選挙に関連した単元目標を設定し、選挙を行うことで当該単元内容の学習を深め

るというものである。内容に関する事象を被選挙人とし選挙する単元を構想し、当該学習の一環という側面を持たせることで、学習する内容が選挙の仕組みの体験的、共感的理解のある社会的事象の認識の育成になるようにつなげる。政治学習に見られる候補者を（あるいは政策を）判断した内容が解決しない（判断が解決に直結しない）のではなく、その判断が当該学習内容につながるようになるのである。例えば選挙活動ポスターや演説に被選挙人の「良さ」を判断し、入れるならば、他者と関わりその単元内容を児童自ら調べ、理解を深めていく姿が見られるようになるのではないか。

そうすることで、「選挙は行くのがいい、そんなに面倒くさくないのに、どうして投票率が上がらないのか」「有効な選挙制度はどのようにすればいいのか」を考えるようになると思定される。そこから、学習内容が当該単元のみ狭義ではなく幅広い社会認識形成につながるのではないだろうか。主体的・対話的で深い学びが求められている現在、当該学習で有権者教育のみならず、そういった学習も具現化するのではないだろうか。

IV 選挙を取り入れた社会科授業の開発¹³⁾

1 授業構成論

(1) 目標

内容に関する被選挙人のNo.1を決める選挙を通して、当該単元の内容や選挙の仕組みを体験的に理解し、それをもとに社会参加のための動的な価値認識形成を目指すことを目標にする。

(2) 内容構成

内容構成は、以下の3つにより行う。

- 第一に、模擬的な候補者を選定し、後援者として選挙活動をする。
- 第二に、投票や関連活動を行い、参加することで、実際の選挙を体験的に理解する。
- 第三に、開票を行い、結果の分析を考察する。

(3) 授業過程・方法

授業過程は、以下の4つの段階で行う。

- I 単元内容の習得と自己評価
- II 選挙活動あるいは公開討論会
- III 投票
- IV 開票と結果の分析

2 授業の実際

② 第5学年小単元「5年生がデザインする自動車のNo.1を決めよう」

日時：平成29年11月2日、14日に3時間授業、
7日から13日まで選挙活動期間、11日に公開討論会1時間

実施場：三好市立芝生小学校5年 単学級（30名）

(1) 主題設定の理由

本単元では、児童がさまざまなニーズに応えるようにデザインした自動車を候補者（車）として選定し、自ら後援者として選挙活動等を行い、投票し、結果を考察するものである。

小学校社会科産業学習では、産業に関わる人の気持ちに共感的理解を求める場合が多い。本単元では、児童は後援者としてその自動車の良さを探究しなければならず、そこには使用する消費者のニーズ、それに応えようとする生産者、まわりの環境にいる人等の気持ちを考えないといけない。それにより共感的理解を深められるものとする。また自動車（候補者）とそのニーズ（政党）を選挙することで、その事象を考え、その政策の善し悪しの価値判断を行うことができ、より産業の社会的認識を深めることができると思う。

(2) 小単元の目標

【能力目標】

自動車のNo.1を決める選挙を体験し、自動車生産にあるニーズ等の人の気持ちや選挙の仕組みを理解することを通して、自己の価値と向き合い、選挙をする動的な価値認識を形成する。

【知識目標】

- (1) 自動車のニーズは、立場により善し悪しの価値認識が違う。
- (2) 得票には、政策等の善し悪しの他にも、印象や人気に関係してくる。
- (3) 有効と判断された一票は、「一票」として機能する。それによって意思表示をすることが選挙権である。
- (4) 一票を大切にしている仕組みがある反面、投票率が低下している実情が存在している。

(3) 授業展開の論理

I 自動車産業学習におけるニーズの評価

……………1時間

- II 選挙活動……………(各自空き時間に活動する)
- III 公開討論会……………1時間
- IV 投票……………1時間
- V 開票と結果の分析……………1時間

パートIでは、自動車産業学習を通して、それに関わる気持ちやニーズを振り返り、どのニーズが心に残ったのかを考える。そのなかで、いろいろなニーズにこめられた自動車のうちNo.1は何かを問いかけることにより、具体的にその気持

ちやニーズにせまろうという構えをつくるようにする。そして後援会として推していきたい自動車にあるニーズ、生産者の気持ちに合う者どうしてグループを作りポスター作成等の選挙活動の計画を立てる。また、ニーズを政党とし、そこでも連携することを通して、政党の理解にもつなげる。

パートIIでは、社会科授業だけではなく、休み時間等に選挙活動を行う。その候補者や政党への投票を呼び掛けるために、ポスターを貼ったり、

表2 第5学年小単元「5年生がデザインする自動車のNo.1を決めよう」の授業の概要

単元	学習内容および学習活動や意識	教師の指導・支援
I	1 自動車産業を考える視点として「人々の気持ち、ニーズ」を振り返りの再評価をする。 • 高齢者でも安心して運転したい車が必要。等 どんなニーズでデザインした自動車がクラスNo.1になるだろう 2 選挙活動をするために、候補者、時代(ニーズ)を決め、振り返りや再度調べてポスターにまとめたり、計画を立てたりする。 • 本や資料に高齢者のことが書かれていた。家でも祖父母が乗りにくいと言っていたから、高齢者にやさしい車が良いな。 • みんなに知ってもらうためにピラを作ろう。等	• 振り返りの側面から、選挙を取り入れることを理解できるように指導する。 • 「より知ってもらうには」意識させるようにすることで、より深く調べ、振り返りをする大切さを理解できるようにする。 • 自動車を表すキャッチフレーズや性能をポスターに書くようにすることで、分かりやすく伝えるための調べ学習がよりできるようにする。
II	3 自分が推薦する候補者や政党を知ってもらうために選挙活動をする。 • 握手や呼びかけをすると、より相手に伝わるな。等	• 校長等の管理職、教職員や6学年児童にも協力を依頼し、広く選挙活動ができるようにする。 • 世論調査を毎日行い、有権者の投票意識を調査し、選挙活動に生かすことができるようにする。 • 選挙公報を発行し、選挙をする意識を深めることができるようにする。
III	4 公開討論会を行い、自分の政党や自動車のアピール、他の政党へ質疑、応答をする。 • 高齢者や子どもにも使いやすいのはいいな。 • 速いと言っても、ガスをたくさん出すなら地球が汚れるよ。等	• 政党や自動車のアピールや質疑応答を、時間を決めて行うことで、各政党のニーズ等の概要が理解できるようにする。
IV	5 判断し、投票する。 • ついたてがある。それに投票用紙には投票理由を書かなくてもよいのか。 • 政党、候補者(車)と2枚の投票用紙があるのか。等	• 気付いたこと等を投票後にメモするように指導する。
V	6 開票と結果の分析をする。 • 高齢化が進んでいるから、高齢者にやさしい車はこれからもっと求められてくるな。 • 車には安全機能が必要だから、その機能がたくさんついている車はみんながほしいと思うな。等	• 人気投票ではなく、選挙を通して学習した意義を感じられるように指導する。

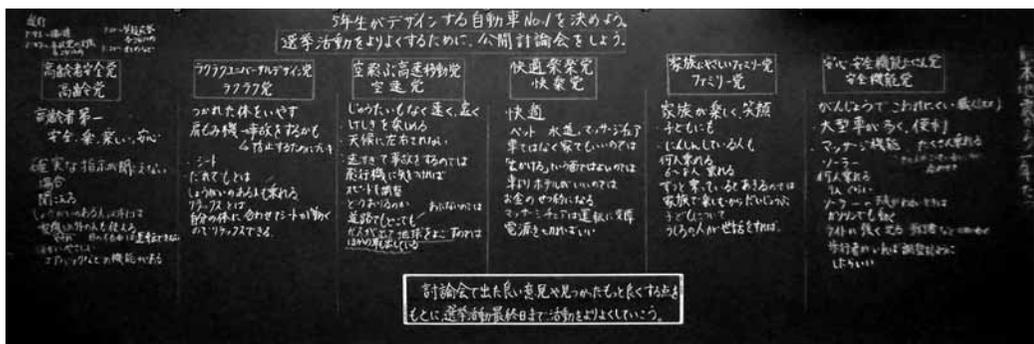


図2 公開討論会の最終板書



図3 第5学年小単元「5年生がデザインする自動車のNo.1を決めよう」の最終板書

握手をしたり、ピラを配ったりする。その中で、ニーズ等の生産に関わる人の気持ちに共感し、注目する政策等をアピールすることで、自動車産業の理解を深める。

パートⅢでは、深めている自動車産業の理解をより鮮明にするために、各政党に分かれ、公開討論会を行う。その中で自分たちの政党、自動車、そこにあるニーズをアピールする。そしてニーズに関する質疑応答を行い、より自動車産業の認識を深めることができるようにする。

パートⅣでは、選挙はがき(入場券)が手元に來た児童から投票をする。選挙管理委員会や立会

人等の運営も児童が行う。投票前に選挙の原則を確認し、投票する。

パートⅤでは、結果を分析する。自動車、政党の票数からどのような判断をしたのかを分析し、自動車産業の理解を深める。また投票の感想から、投票への意識を引き出し、「投票の大切さ」を理解できるようにする。

(4) 授業の分析

授業の概要は表2にまとめた。30名のうち、3名を抽出し(表3)、分析する。その際単元で用いたワークシートに児童が記述した「ニーズ等に関する記述」「選挙に関する記述」を視点にし、

表3 第5学年小単元「5年生がデザインする自動車のNo.1を決めよう」における児童の記述の概要

政党	ニーズ等に関する記述		選挙に関する記述	
	選挙前	選挙後 (各児童は自分の党に投票)	選挙前	選挙後
A 見 ラクラク ユニバーサル デザイン党	<ul style="list-style-type: none"> 誰でも楽に乗れる車が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者でも誰でも免許があれば、運転できる自動車は良い。 つくられた人も楽に乗るためにはマッサージ機能が必要かもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> 選挙する前に選挙に出る人が自己紹介や「がんばります」とみんなの前で言う。あく手をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 投票用紙は、折っても開き、じょうぶである。 せっかく権利があってチャンスがあるのに、見のがしてはいけない
B 見 高 齢 者 安 全 党	<ul style="list-style-type: none"> 車いすのままで安全に乗れたら良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進み、高齢者の事故が増えているので、高齢者のことを考えた車は安心できるものだ。 エアバックがあったら、事故が起きてもけがが減ると思うので安心できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 選挙が始まるときに、選挙の人の顔や名前がのっている紙が配られた。新聞に選挙のことが書かれていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 一番最初に来た人は、投票箱を確認できる。 世論調査で自分の党が一番で、ピラ配り声かけをがんばったから、高齢党が一番得票数が多かったと思う。 せっかく投票する権利があるのに投票に行かないのはもったいない。
C 見 高 齢 者 安 全 党	<ul style="list-style-type: none"> 何もかもが安全で楽な車が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進む中で、高齢者のことを考え、性能が良い車が良い。 高齢者に負担をかけない安全な機能は、その家族も安心する。 	<ul style="list-style-type: none"> 投票する上で、当日に行けないなら期日前投票ができる。(家の人がしていた) 選挙の日の前に立こうほ者が車に乗って、演説のようなことをしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 政党は比例区、候補者は小選挙区で選挙する。 選挙をしてははじめはめんどうだと思ったが、短時間にかん単に票を入れることができるので、実さいに選挙に行けばめんどうと思う人は少なくなる。買い物ついでにも行ける。

単元当初と選挙後の変容を考察する。

A児は、ニーズ等に関する記述で、当初は「だれでも楽に乗れる」ことが良いと考えていたが、その対象は不明確であった。選挙活動を通して、「高齢者」や「疲れた人」等の対象を明確化して、ニーズを考えられている。選挙に関する記述として、演説等の生活経験をもとにした認識から、選挙人当事者として投票用紙の特徴をとらえ、有権者としての意識ももったと考えられる。

B児は、ニーズ等に関する記述として、「高齢者が車いすを使用する」ことを当初考えていたが、選挙後は高齢化の現実も考えるようになっていく。選挙に関する記述としては、A児同様生活経験のことから、「選挙活動を多くした政党が多く得票している」ことに気付いて、これにより日頃の選挙運動について考えられる知識となっている。

C児は、ニーズ等に関する記述として、B児同様、当初より高齢化の現実まで関連して考えられている他に、高齢者からその家族まで考えるようになっていく。また選挙に関する記述は、記述前投票等を知っていることから、選挙の仕組みや投票率を上げるための考えをするまでになっている。

当該単元において、選挙を体験するだけではなく、選挙により自動車産業の多面性を理解し、「なぜ選挙に行かない人がいるのだろうか」という疑問を生じ、知っていきたいという姿が見られるようになっていく。

② 第6学年小単元「1学期の歴史人物のNo.1を決めよう」¹³⁾

日 時：平成27年7月8日、16日に3時間授業、
13日から16日まで選挙活動期間

実施場：徳島市川内北小学校6年2組(33名)

(1) 主題設定の理由

本単元は、児童が1学期の歴史人物を候補者として選定し、自ら後援者として選挙活動を行い、投票し、結果を考察するものである。

小学校社会科歴史学習では歴史人物に共感的理解を求める場合が多い。本単元では、児童は後援者としてその人の良さを探究しなければならずそれにより共感的理解を深められるものとする。そして選挙人として投票する際には、後援者として売り込むのではなく、あくまで一選挙人としての立場に立たせることができる。それにより、歴史人物の政策の善し悪しの価値判断を行うことができ、より歴史内容の社会的認識を深めることができる。と考える。

(2) 小単元の目標

【能力目標】

歴史人物のNo.1を決める選挙を体験し、歴史人物や選挙の仕組みを理解することを通して、自己の価値と向き合い、選挙をする動的な価値認識を形成する。

【知識目標】

(1) 歴史人物の政策(行ったこと)は、立場により善し悪しの価値認識が違う。

(2) から(4)は、先述第5学年実践に同じ。

(3) 授業展開の論理

- I 歴史の復習を通した歴史人物の評価…1時間
- II 選挙活動……………(各自空き時間に活動する)
- III 投票……………1時間
- IV 開票と結果の分析……………1時間



図4 第6学年小単元「1学期の歴史人物のNo.1を決めよう」の最終板書

パートⅠでは、歴史学習の復習を通して、歴史人物を振り返り、どの人物が心に残ったのかを考える。そのなかで、いろんな歴史人物のうちNo.1は誰なのかを問いかけることにより、具体的にその人物にせまろうという構えをつくるようにする。そして後援会として推していきたい歴史人物が合う者どうしでグループを作り、ポスター作成等の選挙活動の計画を立てる。また、時代を政党とし、そこでも連携することを通して、政党の理解にもつなげる。

パートⅡでは、社会科授業だけではなく、休み時間等にも選挙活動を行う。その候補者や政党への投票を呼び掛けるために、ポスターを貼ったり、

握手をしたり、ピラを配ったりする。その中で、歴史人物に共感し、注目する政策等をアピールすることで、歴史人物の理解を深める。

パートⅢでは、選挙はがき（入場券）が手元に来た児童から投票をする。選挙管理委員会や立会人等の運営も児童が行う。投票前に選挙の原則を確認し、中でも自由投票の原則から、より自分の価値判断にあった投票をできるようにする。

パートⅣでは、結果を分析する。歴史人物の票数からどのような判断をしたのかを分析し、歴史人物の理解を深める。また投票の感想から、投票への意識を引き出し、「投票の大切さ」を理解できるようにする。

表4 第6学年小単元「1学期の歴史人物のNo.1を決めよう」の授業の概要

単元	学習内容および学習活動や意識	教師の指導・支援
I	1. 一学期を振り返り歴史人物の再評価をする。 <ul style="list-style-type: none"> ● 卑弥呼は呪術でくにをまとめた力はすごいな。等 歴史人物のクラスNo.1って誰だろう 2. 選挙活動をするために、候補者、時代（政党）を決め、振り返りや再度調べてポスターにまとめたり、計画を立てたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ● 安土・桃山時代の織田信長は、新しい戦法で戦い、天下統一をしようとしたのがいいな。 ● みんなに知ってもらうためにピラを作ろう。等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 振り返りの側面から、選挙を取り入れることを理解できるように指導する。 ● 「より知ってもらうには」を意識させるようにすることで、より深く調べ、振り返りをする大切さを理解できるようにする。 ● その人物を表すキャッチフレーズをポスターに書くようにすることで、分かりやすく伝えるための調べ学習がよりできるようにする。
II	3. 自分が推薦する候補者や政党を知ってもらうために選挙活動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ● 握手や呼びかけをすると、より相手に伝わるな。等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 校長等の管理職にも協力を依頼し、広く選挙活動ができるようにする。
III	4. 判断し、投票する。 <ul style="list-style-type: none"> ● ついたてがある。それに投票用紙には投票理由を書かなくてもよいのか。等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 気付いたこと等を投票後にメモするように指導する。
IV	5. 開票と結果の分析をする。 <ul style="list-style-type: none"> ● 織田信長の票が伸びたのは、「リーダーシップ」があるからだ。でも「じゃまになると殺されるかもしれない」という面は見えてなかったと思うな。 ● 手間がかからず、投票することが大切なのに、なぜ選挙に行かない人がいるのだろうか。等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人気投票ではなく、選挙を通して学習した意義を感じられるように指導する。 ※処理の都合で、一つの票に被選挙人、政党を書くようにした。

(4) 授業の分析

授業の概要は表4にまとめた。ここでは、33名のうち、3名を抽出し（表5）、分析する。その際単元で用いたワークシートに児童が記述した「歴史人物に関する記述」「選挙に関する記述」を視点にし、単元当初と選挙後の変容を考察する。

A児は、歴史人物に関する記述として、当初は小野小町を「好き」な印象として見ていたが、選挙を通して、「六歌仙の一人」等のより深化した認識になっている。選挙に関する記述も、「紙に

人の名前を書いて」等表面的なものが、選挙後には「自分の名前を書かなくてよい」こと等、体験してよりイメージが具体化していることが分かる。その上で「きちんと考えて投票したい」と態度形成につながるものも見られる。

B児は、歴史に関する記述として、「聖武天皇によって国が平和になった」から「日本のみだれをなくすために、大仏を作り、日本を明るくしよう」とするようになり、より認識が深化している。選挙に関する記述としては、当初はA児と同様だっ

たのが、按分票を選挙の原則である「平等」に着目して考察している。

C児は、歴史に関する記述として、あいまいな鎌倉時代のイメージだったのが、源頼朝を引き合いに出し具体的な鎌倉時代の認識になっている。選挙に関する記述として、選挙の原則である「秘密」に関連して考察している。また理由を書かないことに疑問を残しており、これにより政治学習への意欲につながるものと考えられる。しかしだからと言って「何となく」でも書いてはいけないという態度形成につながるものも見られる。

また、A児やC児のように選挙によって、新しく「巴御前」に出会い、それに投票していることから、より歴史人物に興味をもち、理解しようとしていたことがうかがえる。

本授業により、動的な価値認識形成を目指し、選挙を取り入れることで、その仕組みの理解や価

値認識につながる態度を育成していると考えられる。また歴史人物の理解を深めていることから歴史学習としての側面も有しているとも考えられる。また、政治学習に向けて、選挙に関する理解も深めている。体験を通して、「なぜ選挙に行かない人がいるのだろうか」という疑問は先述の第5学年の実践と同じであるが、当該単元では、「平等」の概念を含む選挙の仕組み等、細かいところまで目を向けるようにまでなっている。

V 本稿の成果と課題

本稿で報告した授業により、児童は選挙を手段にしなが、当該学習内容を理解し、政治単元で学ぶための動的な価値認識の素地を作ったと考えられる。また選挙活動や公開討論会を通じた学習は、主体的・対話的な深い学びに資する学習になったのではないだろうか。

表5 第6学年小単元「1学期の歴史人物のNo.1を決めよう」における児童の記述の概要

被選挙人 政党	歴史人物に関する記述		選挙に関する記述	
	選挙前	選挙後	選挙前	選挙後
A児 小野小町 平安党	<ul style="list-style-type: none"> 小野小町が歴史人物の中で1番好きで、なぞの人物。 	<ul style="list-style-type: none"> 小野小町は情熱的な恋の歌で夢中にさせる。六歌仙の一人で日本を代表する美女。 巴御前は日本初の武士でカッコいいと思う。(巴御前に投票) 	<ul style="list-style-type: none"> けっして人に言うてはいけない。紙に人の名前を書いて投票箱に入れる。ポスターをはっている。車に乗ってまわっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 投票用紙は、本当は人と党とで2枚ある。自分の名前を書かなくてもよいことを知った。18歳になったら選挙に行きたい。きちんと考えて投票したい。
B児 基 奈 良 党	<ul style="list-style-type: none"> 聖武天皇のおかげで、国が平和になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 聖武天皇はききんや日本のみだれをなくすために、大仏を作り、日本を明るくしようとした。(聖武天皇に投票) 	<ul style="list-style-type: none"> 紙を持って行って箱に入れる。ポスターを貼っている。選挙カーが走っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 名字だけ書いても、同じ人がいたら0.5票ずつ票を入れることから「平等」の選挙ルールがあると思った。無効と思ったものも有効になっていたので選挙はやさしいものだなと思った。
C児 源頼朝 鎌倉党	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉時代はちゃんとした武士の政治が始まった時代。 	<ul style="list-style-type: none"> 源頼朝は幕府のリーダーとして鎌倉幕府を守る。その姿にみんなが安心すると思う。 巴御前は男性武士の世の中で「女性初の武士」という印象が心に残った。(巴御前に投票) 	<ul style="list-style-type: none"> 選挙カーでまわっている。ポスターを貼っている。紙を持って箱に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 投票用紙は自分の名前を書かなくてもいいので秘密にできるし、自由なのでいい。 なぜ理由を書かなくていいのだろうか。 理由を書くところがないので何となくでも書けるけど、それではいけないことが分かった。

ただ、課題も残した。本授業では、その先にある「小学校社会科政治学習の中での選挙」までは報告し、検討していない。また、3,4年生での選挙を取り入れた実践も報告し、検討できていない。

それらを実践し検討することで、より明確な動的な価値認識形成を目指した「選挙を取り入れた社会科学学習」ができ、昨今の選挙に関する問題の解決の糸口にもなりうるであろう。

【註および参考文献】

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領』, 東京書籍, 2009年, pp. 28-29.
- 2) 文部科学省『小学校学習指導要領 平成29年告示』, 東洋館出版, 2018年, p. 44
- 3) 渡部竜也氏は小学校社会科の特質を,
 - ① 同心円の拡大主義 (帰属地域主義)
 - ② 問学問 (総合科学) 主義
 - ③ 入門主義としている。うち③で筆者は説明した。

(渡部竜也「社会科の目標・内容と学力」東京学芸大学社会科教育学研究会編『小学校社会科教師の専門性育成』, 教育出版, 2010, pp. 12-19)
- 4) 安野功他『教師力向上ハンドブック—活動と学びをつなぐ—図解社会科授業<6年>』, 東洋館出版, 2005.
- 5) お茶の水女子大学附属小学校第80回教育実際研究会当日配布資料, 2018.
- 6) 石川祐基治「模擬選挙で政治参加の意識を高める政治学習 (特集 アクティブ・ラーニング 授業ヒント&モデル) — (これがおススメ! 学年・分野別 アクティブ・ラーニング授業モデル)」明治図書出版編『社会科教育』12月号, 明治図書出版, 2015, pp. 54-56.
- 7) 芦部信喜著, 高橋和之補訂『憲法』第五版, 岩波書店, 2011.
- 8) 「静的な価値認識」「動的な価値認識」については, 多田昌司「小学校社会科異文化学習の授業開発 - 第6学年小単元『外国人と共に働くために〜働き方のルールをつくろう〜』の場合 -」鳴門社会科教育学会『社会認識教育学研究』第28号, 2013, pp. 41-50. を参照されたい。
- 9) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』, 東洋館出版社, 2008, p109.
- 10) 橋本康弘「社会科における社会参加」社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』, 明治図書, 2012, pp. 195-203.
- 11) 6学年社会科政治学習以外での授業の試案は, 桑原敏典他「小中高一貫有権者教育プログラム開発の方法(1) — 「選挙」をテーマとする小学校社会科の単元の開発を通して—」岡山大学教師教育開発センター『岡山大学教師教育開発センター紀要』5号, 2015, pp. 93-100. 等が挙げられる。
- 12) 模擬選挙と授業を構想する参考として, 早稲田大学マニフェスト研究所シティズンシップ推進部会編『実践 学校模擬選挙マニュアル』, ぎょうせい, 2016. 等がある。
- 13) 本授業は第27回社会系教科教育学会・第32回鳴門社会

科教育学会合同研究大会 (2015年) で報告した。多田昌司「小学校社会科政治学習の授業改善 - 第6学年小単元『1学期の歴史人物のNo. 1を決めよう』の場合 - 』, 発表資料, 2015.

【資料】

第5学年実践における政党 (選挙公報) の一部, 第6学年実践における候補者ポスターの一部

